

学生ボランティア感想

学生ボランティアを受け入れて



宇都宮市立旭中学校日本語指導教室担当

船山 千恵

本校は、外国人児童生徒教育拠点校に指定されています。現在、中国、ペルー、フィリピン、ネパールにつながりのある8名の生徒が通級しています。8名のうち、3年生は5名です。

その5名の中でも、中2の秋から来日したOさんは、支援がより必要な状況であったため、学生ボランティアの派遣を依頼し、昨年度から荘敏霖さんに来ていただきました。進路を見据え、3年生になった今年度からは張蒙さん、遲宸琳さん、李文暢さんにも協力をいただきました。合わせて4名の学生さんたちに、5教科を中心に2時間ずつ入り込み支援をしていただきました。

学生さんたちは、それぞれの論文執筆など、学業や就職活動で多忙の中、スケジュールを調整しながらOさんのために熱意をもって支援してくれました。一斉授業の中で、学習を理解す

るには難しい状況であったOさんは、「今日、学生ボランティアさんは来ますか?」と、学生さんたちの来校を毎回楽しみにしていました。学生さんたちによる母語支援により、Oさんは安心して授業を受けることができました。

また、学生さんたちは、単に受験に向けて教科学習を支援するだけでなく、日本語でうまく自分の気持ちを伝えることのできないOさんの悩みを聴き、中国と日本の学校生活上の違いなどをOさんに伝えてくれました。

弟を思う姉や兄のような優しさの中にも、「授業中は集中する」、「やるべきことは自覚をもってやる」などと、熱心で真摯な姿勢でOさんに向き合ってくれた学生ボランティアの皆さんには、本当に感謝しています。ありがとうございました。

学生ボランティア感想

ボランティアの方へ 感謝をこめて



真岡市立真岡小学校日本語教室主任

菅谷 真由美

本校は、外国籍の児童が各クラスに2~3人と、比較的外国人の多い小学校です。ただ、入学前に幼稚園や保育所に通っている児童が多く、日本語教室での個別指導は必要ですが、自教室で他の児童と一緒に活動できる子がほとんどです。

しかし、昨年7月に、全く日本語の分からないI君が、編入してきました。日本語が通じただけでなく、集団生活をするのが初めてというI君。本校には日本語指導助手の先生が来

てくださっていますが、翻訳文書作成や保護者の対応などもしていただいているので、彼への支援の時間が十分取れません。そこで、学生ボランティアの方の派遣事業に申し込みました。

すぐに対応していただき、夏休み明けから現在まで、お二人の方が、ご自分の授業の合間に来てくださっています。国語や算数の時間には、個別指導をお願いしています。1年生の教室では、担任の先生の話伝えるだけでなく、体育や図